

【学校教育自己診断アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校教育自己診断アンケートの結果と分析[令和2年度実施分]
<p>●【総括】 令和2年度全般に関しての大きな反省と改善点は、まず次の3点が挙げられる。</p> <p>① 新型コロナウイルス感染予防による年度初めの長期にわたる臨時休校期間中、準備と設備が整わなかったためリモート・オンライン授業を実施できなかった点。代替措置として全家庭に、教科ごとの課題プリントを全3次にわたって発送し、分散登校時に回収点検したものの、この方策に対する自己評価アンケートの肯定的評価(Aよく当てはまる+Bやや当てはまる)の割合は下記の通り。 1[通信設備の有効な活用ができた] 教員 29% 2[コロナ休業期間の課題郵送の効果があつた] 生徒 62% 保護者からもオンライン授業をしてほしかったとの声が多々あり、設備環境を最優先に調整を行って令和3年度は生徒向けの端末機設定についての説明日を設けオンライン授業の基盤を整えた。令和3年度のコロナ不安・自宅療養者への補講、看護系進学コースの夏季講習はすべてオンラインで実施した。</p> <p>② 生徒指導部では保護者からの要望に応じて、令和2年度から「下校時は正門を出た時点でスマホ・携帯電話の電源をオンにして構わない」というルール変更を定め、歩きスマホやバス電車内通話厳禁は従来通りという方針を新年度早々に全生徒に告知する予定であった。しかし臨時休校・分散登校という流れの中で、生徒に分割して伝えることとなり、結果として上記の緩和ルールが生徒間に十分に徹底しない1年となってしまった。重要な校則の緩和については、文書なり一斉配信システムで周知を図るべきであったと反省し、今後は有効で迅速な告知に努めたい。</p> <p>③ 12月の期末考査時に複数発生した新型コロナウイルス感染生徒の、保健所との連携による濃厚接触者特定と判定までの全校休校の期間が長引いた件について。一斉配信システムでの逐次報告と連絡内容について、保護者の方から情報が少なすぎて不安が勝る旨のご指摘をいただいたことを深く反省して、再開時期の見通しが立てにくい際であっても、その時点での最新の情報と方針について伝達するよう改善する。1月以降の休業・再開に関する連絡においてはその方針に則り、夜間を問わず、関係するクラスの家に対して緊急速報を発信している。</p> <p>●【学校運営・学校生活関連】 肯定的評価の割合より 1[宣真には他校にない特色・教育活動がある] 生徒 88% 保護者 90% 2[生徒同士、先生と生徒の仲がよい] 生徒 79% 3[悩みごとの相談をしやすい雰囲気がある] 生徒 61% 保護者 74% 入学前の本校のコース制に対する期待値に対して、さほどの失望感が生じなかったというのが1の肯定的評価の割合の理由と思われる。期待を負う使命感を覚える。ただ2と3について、新型コロナウイルス感染予防策により生徒・教員間のコミュニケーションに制限が生じ、密な関係を築けなかったことが割合が伸びなかった要因と思われる。限られた面談や懇談の時間内にも工夫を施し、生徒の個性を尊重する時間を共有することで相互の理解を深めていくことをいっそう推進していく。保護者の割合の方が高いのは、休校中に生徒の健康状態を確認する機会が多く、そこから信頼関係が構築されたのではないかとと思われる。</p> <p>●【学習・進路指導関連】 肯定的評価の割合より 1[質問したり欠点をとったりしたとき丁寧に教えてくれる] 生徒 79% 2[先生の授業はよく理解できる] 生徒 66% 3[授業は積極的に取り組めて楽しいようだ] 保護者 78% 4[進路について丁寧な指導・相談が行われている] 生徒 77% 保護者 75% 授業のフォローについては8割近い満足度が出ているが、平素の授業の分かりやすさについては7割に満たない満足度である。授業の進行速度や、授業中の理解度の確認・声掛けの適切な実践について、改めて個々に教員が自己検証する必要がある。保護者の感じる満足度が8割に近いうちに、理解度を高める授業展開のあり方を自己もしくは教科スタッフで早急に検討するように努める。また今後 ICT、オンライン授業をどのような局面でどう活用するのが、生徒の興味・関心をうまく刺激し、学習効果を上げるのかについて、多方面から研究・研修するのが緊急課題である。4の進路指導の満足度が8割に達していないのは、対面指導に制約があったことと呼び出す頻度が減少したことが原因と考えられる。今後のコロナ状況に左右されないよう、リモートでの個別進路相談日を、教員当番システムを設けることで、教員と生徒が何らかの形でつながる安定した枠組み作りを検討していく。</p> <p>●【生活指導関連】 肯定的評価の割合より 1[チャイム入室、授業中の適切な注意指導を心がけている] 教員 97% 2[授業中の私語・居眠りを厳しく注意している] 生徒 58% 3[生活指導の方針については理解・共感できる] 生徒 62% 保護者 76% 1と2の相反する割合は看過できず、懇談時の保護者からの意見で私語をあまり注意しないと指摘された複数の教員(講師)に、ヒヤリングと改善指導を行った。生徒についても、授業態度の良好でない生徒には根気強く声掛けをする体制を教員全体で再確認し、複数の教員で巡回・授業参加するなど、柔軟に授業サポートを実践した。3について生徒の納得のいく説明がなされていないと、指導の効果が生じない。指導方針や違反について、その背景・理由・影響をきっちりと伝えることができるよう、ふだんから強く自覚して対処する姿勢が不可欠。また生徒の安全確保の上から、世間における様々な事件・事故に関する旬の情報の共有と収集を平素より心がける。スマホ利用にまつわるトラブルが例年起きるので、先手先手で注意喚起を行う。</p> <p>●【その他の活動関連】 肯定的評価の割合より 1[社会規範や公共心、道徳心を大切に育まれている] 教員 88% 2[人権やいのちを大切に育む心、社会ルールを守る態度を育てている] 保護者 90% 3[クラブ活動は活発である] 生徒 89% 1と2の他者・集団への配慮・思いやりを常に意識下に置いて行動するという教育は、本校の教育方針の要であり今後もたゆまず推進していく。 3の部活動は生徒にとって学習以外で活躍・自己表現できる意義ある時間であり場所である。そこでの体験は成功失敗、楽しさ辛さにかかわらず自己形成に貴重な役割を果たすものと考え、意欲ある生徒の部活動を学校として支援していく。</p>
学校評価委員会からの意見
<p>●【総括】 ①・校内改築時で予算組みの事情があつたのかもしれないが、教育界の主流から見てオンライン・ICT授業の環境整備や取り組みが遅かったように思われる。・先生たちが学校の通信機器でリモート授業できなかった状態は問題。・考え方はいろいろあつて、オンライン授業は利点ばかりではなく、代用案として教材プリントを郵送してくれたが、親が課題用紙を手にとって一緒に考えることができる今回の郵送方法にも安心感があつて悪くなかつたと思う。</p> <p>②・校則について保護者の要望を取り入れてくれるのは評価できる。・生徒の緊急時対応として、安全指導の観点からもそうあるべき。・下校時の電源入れを許可するのと移動時通話厳禁というのは矛盾しないか。下校前に中庭で全員カエルコールを入れさせるなどの、生徒の主体性を信じて任せる方法を考えると、新しい学校の魅力化となるのではないか。・時代に適合しない校則は改変した方がいいが、女子校なので良き伝統を残すように指導してほしい。</p> <p>③去年の冬は休校になる学校が多くあり、医療機関・保健所も大変だったと聞くので本校が特に不手際を打つたとは思っていない。ただ不測の災難に対する経験値を今後にかかすように対応パターンをマニュアル化すべき、一過性の事故のような対処のしかたをしてはいけない。</p> <p>●【学校運営・学校生活関連】 ・コース制で何に力を入れてどんな色を出そうとするかが生徒募集の段階から明確なので、特色作りの力を緩めずに進めて行ってほしい。・男性教師に相談しにくいタイプの生徒もいるので、悩みごとを吐き出しやすい部屋や女性教員がもっと機能できるように検討しては。・当今の女子高生が教員にすべてを相談するものでもないで、相談しやすさについて一定の割合以上を求めなくてもよいように思われる。</p> <p>●【学習・進路指導関連】 ・授業の分からない生徒には授業とは異なる速度、アプローチを変えて教えてほしい。・違う先生の作ったプリントが役立つということのないように、担当が違ってもプリントは共通にして教えてほしい。不公平感を生徒に感じさせては信用度は上がらない。ベテラン教師が入って模擬授業をして、いろんな教え方を教員間で切磋琢磨する必要がある。・進路についての情報は保護者も知りたいので、リモート相談ができれば自宅で保護者も一緒に聞くことができる。・理解力の至らない生徒ばかりでなく、理解を進めたい生徒も視野に入れて、クラス全体を伸ばす授業作りを常に模索して試行錯誤してほしい</p> <p>●【生活指導関連】 ・おしゃべりや授業妨害する生徒に教師が断固とした姿勢を示さないと、クラス全員のやる気が失われる。一時的に授業が中断してもよいくらいの気迫で注意指導するように希望する。・生活指導の注意自体はしかたないとしても、教師の言い方や怒り方に問題があるケースがある。上手な叱り方、意向を飲ませる話法について研究したり外部講師に研修したりしてもらおうと、円満指導になると思われる。・よく注意する先生と全くしない先生がいては不公平。是正を求める。</p> <p>●【その他の活動関連】 ・弱者や年少者をいたわるような人間を育てていただきたい。宣真の教育方針はその点ははっきりしており安心している。・クラブもコロナ禍のせいでだいぶ練習にしわ寄せがきた。しかし予想しない困難が訪れるのも人生経験なので部活を通じて学べることは多い。学校として部活を応援する方針を評価する。</p>